

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772300972		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホームさくら北畠	桜階	
所在地	大阪府大阪市阿倍野区播磨町1-19-9		
自己評価作成日	平成24年5月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様を数名のグループ単位に分けたり、あるいは個人でスタッフとともに外出(散歩・外食)をし気分転換を図って頂いたりしています。
 ・地域密着を念頭とし近隣の方との交流を図れるよう、行事の際には参加して頂く。また、保育所・幼稚園児の訪問も定期的にあり入居者様と交流されている。
 ・毎月施設全体で会議を行い、ユニットごとの問題点を話あったり勉強会(外部講師による)も実施しスタッフのスキルアップをおこなっている。
 ・身のまわりの使用物品等は、入居者様とスタッフが買物へ行き購入する。(入居者様が自ら手にとり確認し、使用物品を購入されることもある)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者が役割を持って家と同じように過ごしてもらいたいとの思いを込めて「のんびりと笑顔あふれる第二の我が家」とホーム独自の理念を掲げて、個々の利用者の持てる力を発揮しながら、役割を持って日々の暮らしが送れるように支援しています。希望に応じた個別の外出支援では外食や、散歩、買い物に出かけ、重度の利用者も一緒に外出する機会が持てるよう支援しています。また3ユニットのフロア間では季節の行事などを合同で行い、利用者や職員が互いに交流できるよう取り組んでいます。家族の来訪も多く、職員との関係も良好で、家族にもホームの行事を手伝ってもらったり、利用者の馴染み場所への外出支援など様々に協力を得ています。スタッフ間は連携が良く、意見や提案も積極的に出され互いに情報を共有しながら利用者支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的人権の尊重、健全育成・援護の実現、社会的自立の助長、地域福祉への貢献「のんびりと笑顔あふれる第二の我が家」をホームの理念に掲げている。	基本的人権を謳った法人理念を基に、利用者に役割を持って家のように過ごしてもらいたいとの思いを込めてホーム独自の理念を掲げています。利用者の出来る事を引き出し、利用者のペースに合わせた暮らしの提供ができていないかをフロア会議などで振り返り、話し合いながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域内の様々な情報を提供して頂いている。また、地域の幼稚園児との交流を定期的に行っている。	地域で出会った方々と挨拶を交したり、運営推進会議の参加者から地域の情報を得て地域の祭りに参加して利用者も踊りの輪に加わったり、ふれあい喫茶などへ出かけています。また、年数回幼稚園児との交流やホームの秋祭りは近隣住民などの参加を得て開催し、交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、介護相談及び認知症の介護方法・介護施設選択の助言を希望者に行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、現サービスの実施について話し合い第三者からの助言により更なるサービスの向上に努めている。	会議は家族や地域ネットワーク委員、地域包括支援センター職員、時には利用者の参加も得て開催し、ホームの近況や行事報告などを行い、その時々々の議題について意見交換しています。参加者から得られた地域情報などは行事に取り入れられたり、サービスの改善に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者との連携や協力体制を望んではいませんがまだ整備されていない。	介護保険制度についてや事務手続きなど、分からない事や相談事があれば、直接出向いて助言やアドバイスをもらっており、市との協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料を職員が閲覧できるようにしている。また、申し送り時やケアカンファレンスの際にケアについて職員内で話し合い等を行なっている。	毎月実施している勉強会の中で身体拘束について話し合ったり、身体拘束に関する事例などがあれば職員に伝えて注意喚起しています。エレベーターはロックしていますが外出されたい利用者がいれば一緒に出掛けたり、屋上で気分転換をもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての資料を職員が閲覧できるようにしている。身体状態(入浴時等)の観察を行い早期に皮下出血等の発見をし、事故報告書を記入し定例会議にて報告し職員が報告書を閲覧している。		

グループホームさくら北畠(桜階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より資料を収集し学ぶ機会を持ち、必要に応じて家族様へ資料提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安、疑問点には敏速に対応すよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見等を記入して頂ける意見箱を設置している。意見等があれば速やかに検討する。運営者への報告も随時行っている。	日常的に家族の来訪が多く、利用者の日頃の様子を伝える際や電話などで直接意見や要望を聞いています。ケアに関する意見は個別の支援に反映させたり、受診に関する家族の負担についての要望で往診医に変更をしたいなど、出された意見はサービスの向上や運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用意見箱をタイムレコーダー付近に設置し定期的に意見用紙を回収している。定例会議の際、意見交換を実施している。	職員は各種会議の際や責任者などに直接意見や提案を行っています。利用者の希望を聞いた食事作りの実施や職員の勤務体制についてなどの意見が出されており、出された意見はできる限り取り入れるよう努め、提案によっては本部に上げて検討しています。状況に応じて個別に話を聞く機会を設けるなど、意見を出しやすい環境や雰囲気作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた、業務内容の変更を実施。職員からの提案があれば、できる限り取り入れられるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に職員が積極的に参加できるよう、学習内容も検討し決めたり外部講師を招くことにより向上意欲や研究心も高まり進んで学習する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと会議や職員懇親行事を行って交流している。また、グループホームネットワークでのスタッフ間の交流を行うよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や入居日などに生活歴、要望等お聞きし安心して入居できるようにしています。入居されてからも不安そうにされていないか出来るだけ話ができるような時間を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や入居日などに生活歴、要望等お聞きし安心して入居できるようにしています。また、入居されてからもご家族様が面会に来られた時などに気付いたことをお聞きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何でも手伝うのではなく、ご自分でして頂けること、職員と一緒にすること、出来ないことを見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで居宅で生活されていた時には出来ない事でも職員と一緒にすることで出来ることがあるので、出来ないと思わず声をかけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が面会に来られた時には、居室でゆっくり話して頂いたり、散歩に出かけて頂いたりしています。また、皆様と外出の予定がある時は、ご家族様にも声を掛け、一緒に楽しんで頂くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信仰されていた宗教の教会や馴染みの美容室等にご家族様と行かれていましたが、認知症の進行、下肢筋力の低下により、いけなくなっています。	兄弟が会いに来られたり、家族と共に友人の来訪があり、一緒に外食などへ行かれています。家族と共に自宅へ戻られたり、誕生日に合わせた外出や法事への出席、家族旅行など、家族の協力を得ながら馴染みの関係や繋がりが継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃、一緒に過ごされる方、仲の良い入居者様を把握しています。一人でいらっしゃる時は、他の入居者様と一緒に塗り絵をして頂いたり、食事準備やおやつ作りを手伝って頂いたりし孤立しないようにしています。		

グループホームさくら北畠(桜階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談・助言を必要に応じて、提供できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様の希望が色々あっても、ご本人様はどうして欲しいのかスタッフ間で考えるようにしています。	入居時に利用者や家族から生活習慣や趣味、暮らし方の希望などを聞いたり、時には入居前に利用していた担当者から情報ももらい、思いを把握しています。入居後は利用者の意向に繋がる言動や職員の気づきなどを記録に残し、把握が困難な場合は家族からも情報を得ながら職員間で共有し、思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からお聞きするのは難しいので、ご家族様にお聞きすることが多いです。入居年数が長い方でもご家族様から、昔のご本人様の様子をお聞きすることがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化に気付けるよう特に注意し、安楽に暮らせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様、かかりつけ医、スタッフに意見を聞き介護計画を作成するようにしています。	アセスメントを基に利用者、家族の意向を取り入れた介護計画を作成しています。毎月モニタリング及び評価を行い、利用者に応じて3ヶ月から6ヶ月の間で再アセスメントを行い、介護計画を見直しています。利用者や家族の意向は事前に確認し反映させています。見直しの際には、家族の意向も尊重しながら利用者本位の介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアの実践状況を記入し、半月ごとに担当職員が評価を記入し、新たなニーズが出ていないか検討するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な制度のご案内、本人や家族の状況を把握し施設外でのサービスも柔軟に対応支援している。		

グループホームさくら北畠(桜階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の残された能力や希望や思いの把握をしっかりと確認した上で見守りながら支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と相談の上、入居者様の状態や家族様の意向を尊重して適切な医療処置が受けられるように努めている。	契約時にかかりつけ医を継続できることを伝え、かかりつけ医を決めてもらっています。受診は家族が対応し家族が付き添えない場合などは職員が同行することもあります。希望による歯科の往診も受けることができます。毎週協力医や訪問看護の来訪があり、協力医とは24時間連絡が取れる安心の医療体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師が皆様の様子を見に来られるので、その時に相談するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず介護サマリーを作成し、病院関係者にお渡しするようにしています。退院の許可が出たときは、面接に行き、情報を得てから退院して頂くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度も入退院を繰り返していらっしゃる入居者様は特に終末期はどう過ごして頂くのかご家族様にお聞きしています。また、ご高齢の入居者様、のご家族様にもお聞きし、かかりつけ医に伝えていきます。	入居時に終末期のケアについてホームで対応できる内容について説明し、意向に沿って支援をしています。終末期を迎えた場合は医師が家族に説明を行い、医師や訪問看護師の指示や助言をもらいながら、家族や職員間でその都度話し合い方向性を共有し、意向に沿って支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、新しく入った職員には、対応方法を教えるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会や消防訓練にて避難方法を身につけるようにし、参加できなかった職員には、資料を読み把握するようにしています。	消防署の指導の下、年1回の訓練とホーム独自では夜間を想定した訓練を年1回行い、利用者の避難誘導や通報の仕方などを実施して再確認しています。訓練については運営推進会議の参加者に報告を行っています。参加の声掛けなどは行われていない状況です。	災害時に地域で互いに助け合える協力関係を築いて行けるよう、運営推進会議で議題に上げて話し合われることから始められてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ本人様がわかりやすい言葉で話すようにしています。	居室に入る際はノックをすることや、目線を合わせて話すなど、基本的なマナーを意識した対応に努めています。利用者は名字で呼んでおり、場合によっては旧姓や下の名前で呼ぶこともあり、個々の利用者に応じた声掛けや対応を行っています。また、排泄の失敗などは周りに配慮した対応を心がけ、不適切な対応があれば都度に注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人様の希望を聞き取ろうとしたり、自分で決めて頂くよう促したりはしますが、なかなか難しいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、その日の体調や気分によって過ごし方を変えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に衣服は季節、本人様の好みがあるのでご家族様にお聞きしたりしています。時々、マニキュアを塗ったりすると、喜ばれる入居者様もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事の盛り付けや、後片付けを手伝った頂くようにしています。	食事は3食共に業者から届けられ、盛り付けや後片付けなどを利用者と共にし、職員も一緒に食卓に着き同じものを食べています。希望を聞いて外食へ出かけ、自分で選んで注文してもらったり、出前の寿司を取ることもあります。おやつはできる限り手作りを心がけており、食事やおやつ作りでは利用者が役割を持って関わられるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事刻んだり、トロミをつけたり、お粥にしたりし、一人ひとり提供の仕方を考えています。1日の水分量も出来るだけ多く摂って頂けるよう、お茶だけでなく、ジュースやコーヒー、好きな飲み物を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施しています。必要な入居者様には、歯間ブラシや舌ブラシを使用し口腔ケアをするようにしています。また、週1回、歯科衛生士による、口腔ケアを受けて頂いています。		

グループホームさくら北畠(桜階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、トイレで排泄して頂けるよう、排泄表を記入し、時間を見てトイレ誘導するようにしています。	個々の利用者の排泄パターンや利用者のサインに合わせて排泄の支援をしたり、落ち着いて食事が摂れるよう食事前などに声かけや誘導を行っています。オムツを着用し退院された方が手引き歩行でトイレでの排泄が行えるようになり、紙パンツに変更し行動範囲が広がった方もおられるなど、トイレでの排泄が継続できるよう自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ、緩下剤を服用せずに排便して頂きたいので、野菜を残さず食べて頂いたり、水分を多く摂って頂いたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い入居者様と入って頂いたり、浴槽に入っているときに、一緒に歌を歌ったりし、入浴を楽しんで頂けるようにしています。	入浴は週に3回を目安に日中の時間帯に職員とゆっくりコミュニケーションを図りながら入ってもらっています。毎日入浴される方や好みのシャンプーなどを使用される方、また入浴剤や季節のゆず湯なども使いながら入浴が楽しめるように支援しています。入浴を拒む方は時間を空けて声掛けしたり、翌日に変更するなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日中、リビングで過ごして頂くのはしんどいと思われるので、昼食後～おやつ前までは休息できるようにしています。また、夜間も早く横になりたい入居者様は早めに休んで頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化により服薬状況が変わった時は、連絡ノート、個人ケース記録に記入し、申し送りでも必ず報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日用品や好きなおやつを買いに行ったり、食事準備、食後の片付け、その他の家事手伝いを出来るだけ入居者様に手伝って頂き、役割を持って生活が送れるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事、年末年始、お盆などでご家族様と家に帰られたり、ご自分のご兄弟に会いにご家族様と一緒に出掛けられたりしています。	散歩やスーパーへの買い物など、重度の方も一緒に出かけられるよう支援しています。希望があれば暑い日や雨の日にも体調に配慮しながら希望に沿って外出したり、屋上で気分転換に外気浴をしてもらう事もあります。季節毎の花見や希望を聞いて喫茶店や外食などにも出かけています。また年に1度、利用者の希望に沿った個別外出も実施し、出かける機会が多く持てるよう支援しています。	

グループホームさくら北畠(桜階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布があると安心されるようなので、少しだけ持って頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、居室に電話が設置できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにリビングの飾りつけを変えたり、行事の時の写真を飾ったりしています。写真を飾ると、よくご自分の写真を見に行かれています。	広いリビングは行事の写真や入居者が昔描いた絵を飾ったり、利用者と共に作成した季節の作品などを飾り、利用者に季節を感じてもらえるように飾り付けを工夫しています。広いキッチンスペースでは職員と共に役割を持った利用者が食事の支度を行っています。また各居室前のベンチや廊下の一角に設けられたベンチスペースは、家族の来訪時や利用者が一人になりたい時などに利用されるなど、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室前やコーナーには、くつろぐことのできる空間(ベンチ)を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使い慣れた家具や思い出の写真置き、落ち着いて過ごせる空間を家族様と入居時や入居後に検討し工夫している。	利用者はテレビや炬燵、また仏像や趣味の写真集を持参されたり、自室で塗り絵をされる方もあり、家族や職員と相談しながら過ごし易い部屋となるようよう支援しています。またデジタルフォトフレームを持参し家族が定期的に写真を入れ替えに来られている方もいます。各居室はトイレが設置されており、職員は使用後はすぐに掃除を行い臭いがこもらないように気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の玄関には、表札があり居室がわかるよう工夫している。		